

2023(令和5)年3月1日 報道発表資料
[本リリース発信元] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



© Michèle Laurent

京都賞受賞アーティスト、アリアーヌ・ムヌーシュキン率いる伝説の劇団「太陽劇団」(フランス)
コロナ禍の延期を経て、22年ぶり2度目の来日にして初の関西公演が実現!

太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)
『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』

作:太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)
演出:アリアーヌ・ムヌーシュキン(2019年京都賞受賞)

2023年11月4日(土)、5日(日)
ロームシアター京都 メインホール

[本リリースに関するお問合せ先]
ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当:松本、山形
電話:075-771-6051(10:00~17:00) FAX:075-746-3366
E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

■企画趣旨

世紀をまたぐ世界的演出家アリアーヌ・ムヌーシュキンが率いるフランスの「太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)」の22年ぶり2度目となる待望の来日公演。コロナ禍の延期を経て、22年ぶり2度目の来日にして初の関西公演が実現！
現代演劇の歴史に新たなページが刻まれる、圧巻のスペクタクル！

太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)は1964年にフランスで旗揚げされ、演出家アリアーヌ・ムヌーシュキンを中心に現在も新作を発表し続けている世界屈指の演劇集団です。パリ郊外の劇団の本拠地は旧弾薬庫(カルトウーシュリ)を改装し、劇場、アトリエ、食堂、住居まで備える舞台芸術の理想郷と言われています。集団創作という独自のスタイルで古典劇から社会派現代劇までユニークなレパートリーを持ち、2001年の初来日公演『堤防の上の鼓手』では日本の文楽を取り入れた斬新な演出で大きな話題を呼びました。

太陽劇団は早くから東洋の伝統文化や民俗芸能に深い関心を持ち、舞台表現に取り入れてきました。ムヌーシュキン自身も能、歌舞伎、大衆演劇など日本の芸能文化への憧憬を変わらず持ち続けてきたと言われています。2017年に久しぶりに日本を訪れ、世阿弥が流された佐渡島を巡ったりする中で『金夢島』の構想が固まり、新作づくりがスタートしました。2019年には京都賞を受賞し、来日時には日本の演劇人や研究者たちとの活発な交流もあって、太陽劇団の再来日の機運が盛り上がりました。しかし、その後はコロナ禍による数々の障壁が立ちはだかり、来日公演は延期を余儀なくされたのです。しかし2021年秋、太陽劇団と日本の協力者たちの粘り強い努力がついに実って『金夢島』はパリの本拠地カルトウーシュリで無事に初日を迎えました。そして2023年秋、改めて太陽劇団の実力を示す壮大なスペクタクルが、22年ぶりの日本上陸、そして初めてとなる関西公演の実現を果たします。

太陽劇団こそが、私たちの世界を支え、私たちにまだ生きることを諦めないよう信じさせてくれるアーティストなのだ。(フランスウェブマガジン: アーティスティック・ルゾ誌 エレーヌ・クトネル)

太陽劇団の本拠地:カルトウーシュリ



カルトウーシュリの入口

陽光が降り注ぐ中庭



壁面に書かれたタイトル

劇場入口でムヌーシュキンがお出迎え

エントランス内にある食堂

■アリアーヌ・ムヌーシュキンからのメッセージ

親愛なる友人の皆さま

3年以上の努力と忍耐が必要でした。長い間、最初から、公演を構想していた時から、(私は奇跡的に感じている)稲盛財団の強力な支援が必要でした。東京芸術劇場の無限の粘り強さと、ロームシアター京都の忠実な根強さが必要でした。そして近いうちにお礼を言う機会のある、非常に忠実な支援者の努力も必要でした。これら全てがあって、太陽劇団は初来日から22年を経て、ようやく日本に帰ってくる事ができるのです。この公演を皆様にお見せできることに、俳優、舞台スタッフ、制作スタッフなど劇団員全員が感じている巨大な感動を、皆様に知って頂きたいです。私たちの「金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima」は、夢の中の日本、時には悪夢のような、想像上の、時には風変わりな、崇拜とは言わずとも熱烈に愛する日本を舞台にしたものです。日本は私に多くのことを教え、私生活や芸術に多くの恩義を与えてくれました。この公演はそんな日本に対する情熱的な愛と限りない感謝の気持ちを込めたものです。待ち遠しさは計り知れないです。とても光栄です、私たちは。

近いうちにお会いしましょう。

アリアーヌ



©まつかわゆま

2023年2月2日、オックスフォード於
アリアーヌ・ムヌーシュキン

Chers amis,

Il aura fallu plus de trois ans d'efforts et de patience. Il aura fallu l'aide puissante (que moi, je trouve miraculeuse) de la Fondation Inamori et cela depuis longtemps, depuis le début, depuis la conception même de notre spectacle. Il aura fallu l'obstination incommensurable du Tokyo Metropolitan Theatre et la fidèle ténacité du Théâtre Rohm de Kyoto. Il aura fallu aussi le travail acharné d'autres très fidèles soutiens que j'aurai aussi bientôt l'occasion de remercier. Il aura fallu tout cela pour que le Théâtre du Soleil revienne enfin au Japon, 22 ans après son premier voyage. Je voudrais que vous sachiez l'immense émotion que nous ressentons, tous, comédiens, techniciens, administrateurs, toute la troupe, à l'idée de vous présenter ce spectacle, notre *Île d'or*, notre *Kanemu-jima*, qui met en scène un Japon rêvé, cauchemardé parfois, un Japon imaginé, parfois farfelu, toujours adoré pour ne pas dire vénéré.

Un spectacle qui, en vérité, est un geste d'amour passionné et d'infinie Gratitude envers ce pays qui m'a tant appris et à qui je dois tant dans ma vie personnelle et dans mon art.

Voilà. L'impatience est immense. Si honorés nous sommes.

A bientôt.

Ariane

Ariane Mnouchkine, Oxford, 2023

■ あらすじ

病床に伏す年配の女性コルネリアが、ガランとした室内で目覚める。部屋の窓から見える風景は日本の浮世絵のようである。携帯電話の着信で目覚めた彼女は「いま、私は日本にいる」と話し、帰国を促す相手に、着いたばかりなので帰るつもりはないと抵抗する。しかし付き添いのガブリエルが電話を代わり、「コルネリアは日本にいると思っ込んでいます」と相手に説明し、これは病人の幻覚だと説明する。コルネリアとガブリエルが狂言回しとなって、コルネリアが夢の中で見る、日本の架空の島「金夢島(かねむじま)」での出来事が舞台上で展開されていく。

金夢島の女性市長のヤマムラと、その補佐をするアンジュ、秘書のカイトウは、地域振興のため島での国際演劇祭を計画しており、世界各地の劇団が応募してきている。一方で、市長と対立するタカノやワタベといった男たちは、海千山千の弁護士ヒロカワに相談して市長から主導権を奪おうとしている。ヤマムラたちは島の伝統や自然を守っていきたい立場だが、タカノたちは、島のリゾート開発を目論む外国人資本家や建築家アマノと結託し、のどかな漁港を埋め立ててカジノ建設を企てていた。二つの思惑が交錯して、国際演劇祭の行方には暗雲が立ち込めていた……。



© Michèle Laurent

■ 公演評(パリ公演)

・La Terrasse 2021年11月13日 by Agnès Santi

太陽劇団とその代表、アリアーヌ・ムヌーシュキンによる果てしないクリエイション作業の末に生み出された『金夢島』に乗り込みましょう。そこで我々はまばゆいばかりの劇場の夢を発見するのです。日本を舞台にしたこの劇は、現実にある無数の記号と響きに満ちており、演劇の力と美しさを大いに称えています。これまで以上に輝きを増した劇団は、私たちの生きる今を活気づけてくれるでしょう。

・Le Monde 2021年11月17日 by Brigitte Salino

『金夢島』にあるのは演劇の力とその力を信じる心だ。海や砂の嵐、夜に咲く桜、遠くに見える火山…といった美しいイメージで表現され、幻想的に風景が変化し、舞台と袖を行き来する役者の動きはバレエのようで、役者たちの一体感が感じられる。

・Libération 2021年11月22日 by Anne Diatkine

『金夢島』には、素晴らしくて驚きに満ちたシーンがたくさん登場する。この旅のような作品が私たちを誘うのは、日本の佐渡島ではない。想像上の日本と架空の島だ。(中略)ムヌーシュキンが世界を作るやり方には、なにか果てしなく楽しいものがある。まるで子どもがするような、真剣で、しかし遊び心に溢れたやり方だ。

・Artistik Rezo 2021年11月22日 by Hélène Kuttner

日本とその伝統に敬意を表し、多国籍の約50名のアーティストが驚くべき潜在能力を発揮して舞台を彩る、家族や友人と一緒にここに立ち会って、ユートピアを体現した演劇空間で起こることを味わってほしい。

(中略)物語は四方八方に分散する。しかし、役者のエネルギー、生き生きとした表情、映像の美しさが観客を魅了し、それぞれのシーンから醸し出される人間性、そのユーモアが余韻に残るのだ。

・MEDIAPART.fr. 2021年11月22日 by Antoine Perraud

アリアーヌ・ムヌーシュキンと太陽劇団は、泥を金に変える、舞台の錬金術師だ。現実と言及したり、舞台の前面に押し出すことを自らに禁じて、その代わりに、現実を魅惑的な絵に変えてみせる。(中略)『金夢島』は、洗練と冗談という両輪からなる。また、この作品は、夢と現実、見えるものと見えないもの、ポリティック(政治)とポエティック(詩的なもの)、確信と疑い、明白さと深さを同時に演じてみせる。



■ プロフィール

演出：アリアーヌ・ムヌーシュキン Ariane Mnouchkine



演出家/太陽劇団創立者・主宰

1939年パリ生まれ。ロシア人の映画プロデューサーを父に持ち、早くから文化的環境の中で育つ。59年ソルボンヌ大学在学中に演劇集団A.T.E.P.(パリ学生演劇協会)を結成、これが後に太陽劇団へと発展する。64年の太陽劇団旗揚げの前年に日本を旅行し、この時の日本文化体験が、その後の演劇人生に大

きな影響を及ぼしたといわれている。パリ郊外のカルトゥーシュリを拠点に独自の集団創作スタイルをとる太陽劇団だが、ムヌーシュキンのリーダーシップのもと古典から現代劇まで多数の話題作を生み出してきた。映画『1789年』、『モリエール』などムヌーシュキンによる監督作品もあるが、劇団舞台の映像化にも積極的である。一方で「エコール・ノマド」といったワークショップを各地で開き、若き演劇人の育成にも励んでいる。これらの長年にわたる功績が評価され、2019年に第35回京都賞思想・芸術部門を受賞した。

【アリアーヌ・ムヌーシュキン インタビューから抜粋】

■Télérama 2021年11月3日 with Joëlle Gayot

・太陽劇団に対して私がずっと望んできたのは、私たちがそこで幸せであるということです。幸せにすることが出来るよう、幸せであるということです。だからこそ、演劇には癒す力があるのだと思います。カタルシスが、舞台上に生じるこの苦しい感情を、生々しい幸福へと昇華するのです。

■Le Monde 2021年11月9日 with Fabienne Darge

・太陽劇団で活動をするときは、常に舞台芸術を追い求めることを目標にしています。舞台芸術が私の元から遠ざかっていってしまうような気がしているのです。いたずらっ子のように、そこにあって、捕まえようと思ったら一生懸命やらないといけない、という芸術だと思っています。

・パンデミックの物語にはしたくなかったけれど、でも明らかに今回の出来事は私たちの身体と魂を揺るがし、それは作品の中にも状況や感情を通して現れていると思います。

・『金夢島』。観客はこの島に何を求めるのでしょうか。私たちにとって、ここは芸術の国であり、確かに美をめぐる闘争の国でもあります。ますます脅威にさらされる国。そうした点では、他の多くの例と同様に、パンデミックはすでに存在している状況を改めて浮き彫りにしたと言えるでしょう。

太陽劇団 Théâtre du Soleil

太陽劇団は1964年にフランスで設立。パリ郊外のカルトゥーシュリ(弾薬庫跡)を活動拠点とし、“集団創作”というユニークなスタイルで知られている。ヨーロッパやアジアの伝統様式を取り入れる一方で、社会への問題意識も鋭く作品に反映し、古典から現代劇まで幅広いレパートリーを持つ。フランス革命を題材とした『1789』(1970年初演)で大成功を収め、以来世界が認める現代演劇のトップランナーとなった。2001年に『堤防の上の鼓手』(新国立劇場)で初来日、文楽のエッセンスを大胆に取り入れた舞台で話題を呼んだ。演出家アリアヌ・ムヌーシュキンを中心に多様性に富んだメンバーで構成され、劇団アトリエから生み出される音楽、美術、衣裳なども高い完成度を誇る。カルトゥーシュリには劇団自慢の食堂もあり、楽屋も開放されるような祝祭感に満ちた“演劇の理想郷”には、演劇ファンはもとより家族連れも多数訪れている。

■ 太陽劇団 2000年代の代表作

上演年	タイトル	作・演出	会場
1999-2002	『堤防の上の鼓手 俳優によって演じられる人形のための古代東洋の物語』 Tambours sur la digue, sous forme de pièce ancienne pour marionnettes jouée par des acteurs	エレヌ・シクスー作 アリアヌ・ムヌーシュキン演出	カルトゥーシュリ 東京: 新国立劇場
2003-06	『最後のキャラバンサライ(オデュッセイア)』 Le Dernier Caravansérail (Odyssées)	アリアヌ・ムヌーシュキン率いる 集団創作	カルトゥーシュリ
2006-09	『はかなきものたち』 Les Éphémères	アリアヌ・ムヌーシュキン率いる 集団創作	カルトゥーシュリ
2010-13	『フォル・エスポワール号の遭難者たち』 Les Naufragés du Fol Espoir (Aurores)	アリアヌ・ムヌーシュキン率いる 集団創作 創作アソシエイト:エレヌ・シクスー	カルトゥーシュリ
2014-15	『マクベス』 Macbeth	アリアヌ・ムヌーシュキン翻訳・ 演出	カルトゥーシュリ
2016-19	『インドの寝室』 Une Chambre en Inde	アリアヌ・ムヌーシュキン率いる 集団創作	NY:パーク・アベ ニュー・アーモリ ー カルトゥーシュリ
2018-19	『カナター-エピソードI-論争』 Kanata-Épisode I -La Controverse	ロベール・ルパーージュ演出	カルトゥーシュリ

■公演情報

太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』 京都公演

日時:2023年11月4日(土)、5日(日)全2回公演

会場:ロームシアター京都 メインホール

作:太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)

演出:アリアーヌ・ムヌーシュキン(2019年京都賞受賞)

創作アソシエイト:エレヌ・シクスー

音楽:ジャン=ジャック・ルメートル

出演:太陽劇団(テアトル・デュ・ソレイユ)

チケット:

全席指定 S席 8,000円、A席 6,000円、ユース(25歳以下)4,000円、18歳以下無料
[7月15日(土)一般発売]

※未就学児入場不可。

※ユース(25歳以下)、18歳以下のチケットの方は、公演当日に年齢が確認できる証明書をお持ちください。

主催:ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

共同招聘:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

共催:京都新聞

特別協賛:公益財団法人稲盛財団

お問い合わせ:ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

京都公演 WEB ページは[こちら](#)

< 関連企画 >

- ・太陽劇団作品の上映会・トーク 10月29日(日)京都芸術劇場 春秋座(京都芸術大学内)
- ・太陽劇団による演技ワークショップ 11月1日(水)ロームシアター京都

< 他地域公演情報 >

東京公演 10月20日(金)～26日(木)東京芸術劇場 プレイハウス ※23日(月)休演

東京芸術劇場 WEB サイトは[こちら](#)